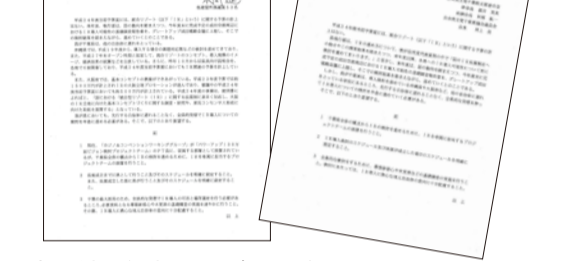


統合リゾート(IR)の推進について要望書を提出。

国際競争力の高い、魅力ある滞在型観光実現。



写真上/森田知事に要望書を手渡す。

2月定例会県議会・総合企画水道常任委員会の中で、成田空港発着枠30万回を契機とした国際競争力の高い、統合リゾート(IR)の推進について、森田知事に直接、要望書を提出し、常任水道委員会においても発言しました。

2月定例会県議会、総合企画水道常任委員会での質疑応答の一部を紹介いたします。

ほんま進

2月9日に羽田空港の着陸ルートが変更になり、可能な限り人口密集地を飛行しないルートになったが、ルート変更以降、この一ヶ月間に、南風好天により千葉市上空を飛行した日は何日あったのか？

空港地域振興課長の答弁が、次の通りでした。
 ①2月9日以降の羽田の飛行ルートの運用実績について、現在、飛行コース公開システムで確認できる3月7日までの間は、南風好天による飛行は、まだ冬場ということもあり少なく、2月20日の午後5時から9時台、2月24日の午後3時から8時台の2日に限られています。
 ②この運用状況については、先程申し上げた公開システムで、設定されたルート通り飛行していることを

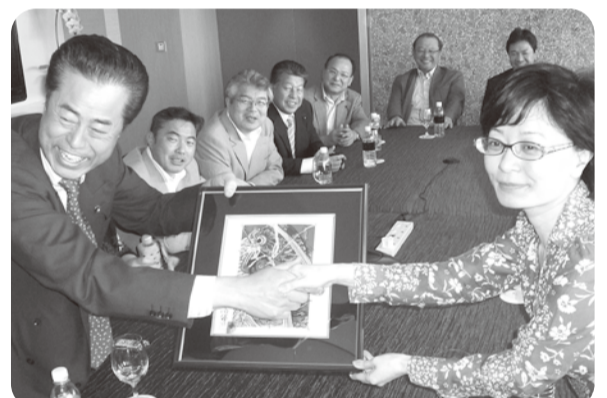
確認しています。

ほんま進

今回のルート変更は、昨年11月の連絡協議会で考案が示されてから僅か3ヶ月程度で実現したが、高度引き上げはまだ実現していない。何か問題があるのか？

①高度引き上げがなかなか実現しない理由については、南風好天時の着陸ルートは羽田空港の滑走路配置の関係で、千葉上空で交差する必要があり、安全に万全を期すため、現在、対向する2つの着陸機が交差する相当距離手前で四千フィートあるいは五千フィートまで降下して、国際安全基準である高度差千フィートを確保するという運用が行われています。

③この高度引き上げの際には、その際の交差の安全性を改めて検証する必要があります。高度引き上げの検討には一定の時間が必ず必要となります。



写真上/マリナーベイ・サンズCEO兼会長のタナセビッチ氏と会談

写真下/マリナーベイ・サンズ支配人とIRの取組み等について会談

今後、春から夏にかけて南風運用が多くなるはず。今後、騒音影響をきちんと把握するようにお願いしたい。

ほんま進

高度引き上げについて、安全は最優先であり、検討に時間を要することは理解したが、国からいつごろ改善策が出るか、その目途は確認したか？

①今回の飛行ルート変更は、抜本的な対策にはなっておらず、11月以降も国に高度の引き上げを要請しています。

②残念ながら現時点では高度引き上げがいつ実現するかは示されていないが、我々あるいは関係市町の要請を受け、国では真摯に検討を進めていると理解しています。

③高度引き上げにあたっては、今回の2月9日のルート変更後、これが設計通り運用されているかの確認がまずあり、それから、高度を引き上げた場合に安全な運用が可能かの検証が図られるものと期待しています。

④県としては、先程申し上げた通り、高度引き上げが一日でも早く実現するよう、関係市町と連携して、国への要請を継続していきます。

この件では、知事も航空局長に直接要請したようだが、執行部からも国にプレッシャーをかけてもらいたい。県議会もそれに同調して一生懸命がんばるので是非ともよろしく願いたい。

ほんま進

統合リゾート、いわゆるIRについて要望する。千葉県議会では、昨年12月20日、IRの研究を行う「千葉県議会統合リゾート(IR)研究議員連盟」を立ち上げた。

党派の垣根をこえて、54名の有志が集まり、私が、会長を務める。議員連盟では、2月、海外の先行事例として今最も注目を集めているシンガポールを訪問し、「マリナーベイ・サンズ」と「リゾート・ワールド・セントーサ」の2つを視察したが、我々委員の中でも、非常に大きなインパクトがあった。

このIRの意識や効果については、今回の定例会でも自民党の代表質問と一般質問で取り上げているが、シンガポールの事例を見ると、IRができれば、非常に大きな経済効果があるのには間違いないと思っ

ています。IRの検討を更に進めて頂きたいが、成田空港周辺だけでなく、千葉県経済を発展させるためにも、その辺をしっかり把握して、連盟の会長として要望したい。

議員連盟では、全県的な発想でIRについて検討を早急に進めてもらいたいと考えている。

3月1日、私と自民党の代表者が森田知事と会い、直接要望書を手渡した。

ほんま進

その内容は、1点目が「県全体の観点からIRの検討を進めるため、専属に担当するプロジェクトチームを設置していただきたい」2点目は、「導入には法案の成立が前提になるが、法案成立前と成立後に「県が行う事」と「そのスケジューリング」を明確にしたい」3点目が「全県的な発想でIR導入の可否と地域の選定を行う必要がある事から、地元自治体の意向に十分配慮しながら、幕張や木更津での基礎調査を速やかに行っていたいただきたい」という内容である。

IRの誘致は、全国でも我が県よりも先行している県がたくさんあり、他のも道府県との競争になるので、我が千葉県においても、他の都道府県に遅れることなく、IRの検討を更に進めて頂きたいが、成田空港周辺だけでなく、千葉県経済を発展させるためにも、その辺をしっかり把握して、連盟の会長として要望したい。

10ベクレル以下まで厳格に測定するには、現在の検査体制を見直す必要があると思うがどうか？

ほんま進

①水道水中に含まれる放射線量については、従来の暫定的な指標値二百ベクレルから水道法上の管理目標として10ベクレルに見直されたことから、検査精度を高めることが要求されます。具体的には検出限界値を1ベクレル以下とする検査体制を整える必要があります。

水道水の放射性セシウムの新たな目標値への対応について指摘。

③万一、一時的に10ベクレルを超えた場合でも、飲用に問題ありませんが、安全・安心な水道水の供給を図るため、原水の調査の実施や土砂等を除去するための薬品の増量等を行うとともに、水道利用者への周知等の情報の提供に努めることとします。

東日本大震災への対応や今後の災害対策に万全を期すべく、平成24年度当初予算における本格復旧及び耐震化の予算額はいくらで、どのような工事を行うのか？

平成24年度当初予算では、本格復旧に係る事業として、11億3千4百万円を計上しており、漏水が多発した埋立地域における配水管の布設替えや被害があった水管橋の補修を実施するものです。

また、計画的な管路の更新に伴う耐震化事業として、96億5千5百万円を計上し、約60キロメートルを耐震管に布設替えすることとしております。

大地震が発生した場合、液状化が起こることが危惧されるが、沿岸埋立地域の耐震化をどのように進めていくのか？

ほんま進

当局では、東日本大震災の教訓を踏まえ、浦安市をはじめ、漏水が多発した沿岸埋立地域の耐震化を優先的に進めております。

具体的には、対象とする管路の選定や更新順位を見直すこととし、現5ヶ年計画(H23/H27)に反映させたいと考えております。